

第二七期

二〇一四年四月一日～

二〇一五年三月三十一日

事業報告書

株式会社クレスコ



私たちは「メインITソリューションパートナーを目指す」こと、「ワンストップ・ソリューションを提供する」ことの2つをビジョンとして掲げ、「技術」と「品質」にこだわる  の精神でお客様の信頼に応え続けてまいります。

代表取締役社長
根元 浩幸



社長メッセージ

株主のみなさまには日頃から格別のご支援をいただきまして、お礼申し上げます。

当期の基本方針

次世代クレスコの推進と収益力向上 信頼と成長

クレスコグループは2011年4月から5ヶ年計画で、次のステージへの挑戦と成長をテーマとした「次世代クレスコ」を経営の中核に据えて、事業を展開しています。企業価値を向上させるためには「収益性の向上」が先決と考え、営業体制の強化を始め、品質・技術力の向上や原価管理に、特に注力しています。

当期は「次世代クレスコ」の4年目として、いま一度原点に戻り、「信頼と成長」を重点テーマに掲げて、お客様や株主・投資家様を含めたステークホルダーのみなさまのご期待にしっかりと応えできるように、信頼の獲得と社員・組織の成長を目指しました。

次世代クレスコ

1. 中堅IT企業トップリーグ入り
2. 現事業での卓越性
3. オリジナル製品およびサービスの開拓
4. ユニークな子会社群による複合IT企業
5. 営業拠点の広域化
6. 海外進出
7. 技術研究所設立
8. 女性が活躍できる職場
9. 人材育成のモデル企業
10. クレスコブランドの浸透

当期の取組み

ソフトウェア市場では、第3のプラットフォームといわれる「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」が市場構造に与える影響を強めております。当期のクレスコグループは、このような傾向を踏まえ、「次世代クレスコ」で掲げた10のテーマを取込んだ諸措

策を計画し、実行しました。特に先端技術の研究、品質管理の徹底、新サービス・ソリューションの開発、グループ内の相乗効果の向上、開発体制の強化に注力し、来期に向けて大きな成果が得られたと自負しています。

当期は「技術と品質のクレスコ」の推進と「技術研究所」の強化「組み関連事業の再構築と新ビジネスモデルの創出」「企業間連携強化による収益性の改善と企業価値の増大」「開発体制の整備と強化」「クラウド関連ソリューションの拡販」の5つを重点施策としました。先端技術に特化した組織を設置し、第3のプラットフォームに関連するサービス・ソリューションの開発に取組み、高速クラウドサービス「インテリジェントフォルダエクスプレス (Intelligent Folder Express)」、SAP基幹業務のモバイル化を実現する「モビック (Mobick)」、ビーコン (Beacon) を活用した点呼支援サービス「みんなのてんこ」などをリリースしました。

ファイナンス関連の取組みとしては、M&Aや資本・業務提携を通じた開発体制の強化、事業領域の拡大等を推進するために、自己株式を活用した行使許可条項付・ターゲット・イシュー・プログラム (第三者割当による新株予約権の発行および新株予約権買取契約 [TIP・2014モデル]) を実施しました。

当期の環境

当期の経営環境は、消費増税により、消費者心理の回復が一部で遅れることもありましたが、継続的な経済対策や金融政策を背景に、緩やかな回復基調となりました。このような経営環境の中、企業の戦略的なIT投資の勢いは衰えず、クレスコグループでは、プロジェクト規模の拡大や引合いの増加により、主力の金融・保険分野や公共サービス分野の他、車載関連分野が好調に推移しました。

決算のポイント

- ◆前年同期比、売上高13.8%増、営業利益40.8%増、経常利益33.6%増、純利益49.3%増の増収増益
- ◆ソフトウェア開発事業は全般的に受注が増加 (特に金融・保険関連、スマートデバイス関連、インバウンド関連が好調)、組み込み型ソフトウェア開発事業は国内メーカー向けのカーエレクトロニクス関連の規模が拡大
- ◆グループ内連携により受注案件が増加、開発要員の確保により受注プロジェクトが増加し生産性が向上、直接取引・請負化・持帰り作業推進により収益性が向上、品質管理の徹底によりプロジェクト収益率が改善

来期の方針と重点施策

来期は「次世代クレスコ」の最終年度にあたります。「強みを強化し、お客様へ貢献[信頼と成長]を確かなものに」を方針とし、「人材の確保および育成」「開発および営業体制の増強」「品質管理の徹底」「第3のプラットフォーム関連ビジネスの拡充」「新技術への取組み」の5つの重点施策を具現化して、“強み”の更なる強化と収益性の向上を図ります。

まず、「**人材の確保および育成**」として、採用活動の強化、協力会社との連携強化、技術専門職の育成プログラム実施を行います。

次に、「**開発および営業体制の増強**」として、ニアショア開発（地方分散開発体制）の拡大、オフショア開発（海外開発体制）の推進、M&Aによる営業拠点の広域化および開発体制の強化を行います。

「**品質管理の徹底**」として、プロジェクト管理の強化、多段階での評価改善の実施、クレスコグループ各社に「開発標準体系」の展開を行います。

「**第3のプラットフォーム関連ビジネスの拡充**」として、ビジネスモデルの強化、近距離無線技術の普及に合わせたソリューションの開発、協業ビジネスの推進によるサービス種類の充実を行います。

最後に、「**新技術への取組み**」として、ニーズの調査とIoT (Internet of Things) ビジネスへの進出、先端技術を取込んだ共同研究の推進、研究成果の知財化による競争力強化を行います。

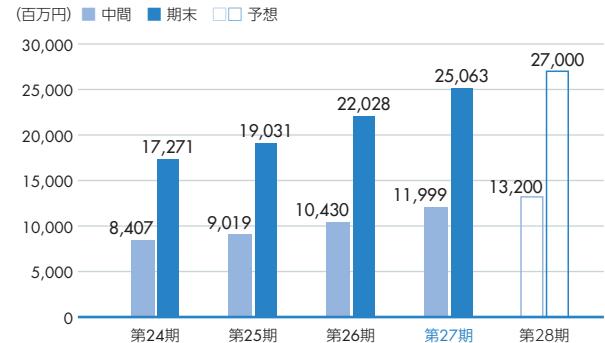
来期の見通し

日本情報システム・ユーザー協会が実施している「企業IT動向調査2015」によると、4割強の企業が2015年度の予算を引続き増やすと回答しています。足許の営業状況からも実感しており、2015年度も本業に直結する基幹系システムや情報系システムの需要が増加すると予測しています。

クレスコグループは、システムインテグレーションを含む受注ソフトウェア開発を事業の柱とし、各種サービス・ソリューションやITコンサルティングをご提供しています。第3のプラットフォーム分野は、2020年にはIT市場の4割を占めるといわれており、クレスコグループがご提供する各種サービスは、この流れを概ね取込めるポジションにあります。IoT基盤、ビーコン基盤、機械学習など、多様化するニーズを実現できる現実的なご提案を、お客様から期待されています。グループ各社が長年培ってきた営業力と経験を活かし、お客様の環境変化をいち早く捉えてビジネスチャンスを支援する、新規性と利便性を備えたサービスを開発し、他社との協業ビジネスも含めた事業を展開してまいります。

売上高

250億63百万円



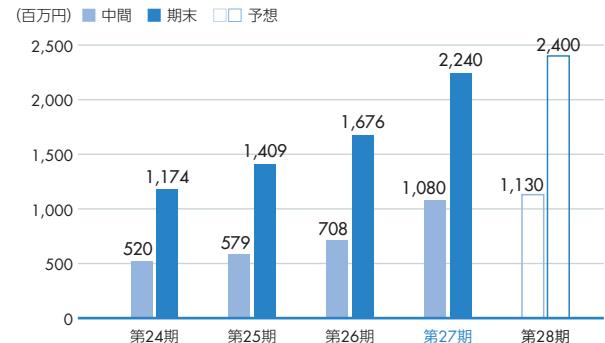
営業利益・営業利益率

20億13百万円



経常利益

22億40百万円

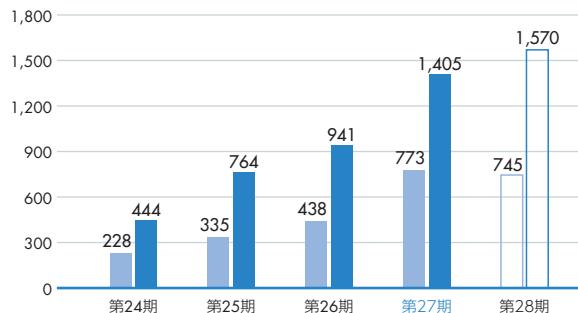


連結業績ハイライト

純利益

14億5百万円

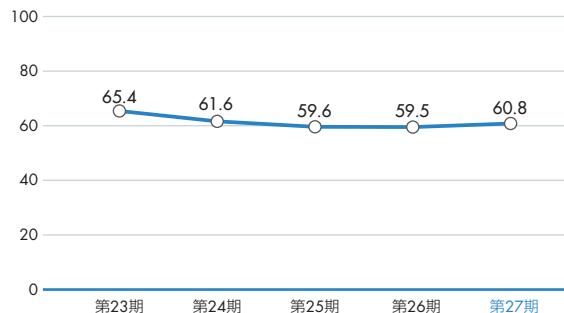
(百万円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



自己資本比率

60.8%

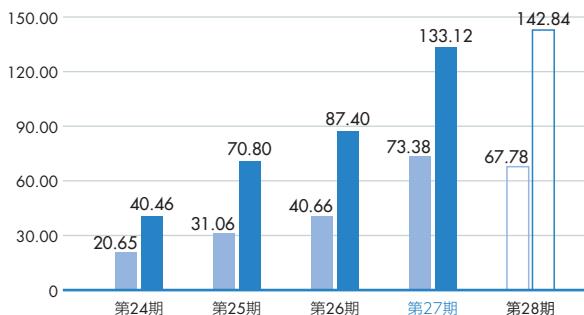
(%)



1株当たり純利益

133.12円

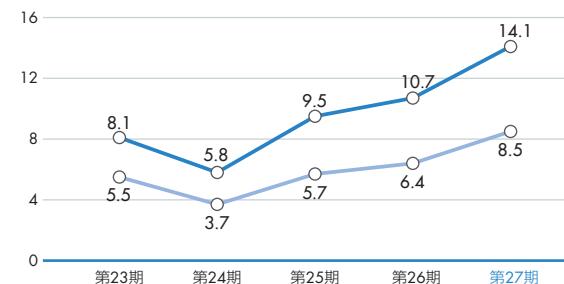
(円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



ROA & ROE

ROA 8.5%
ROE 14.1%

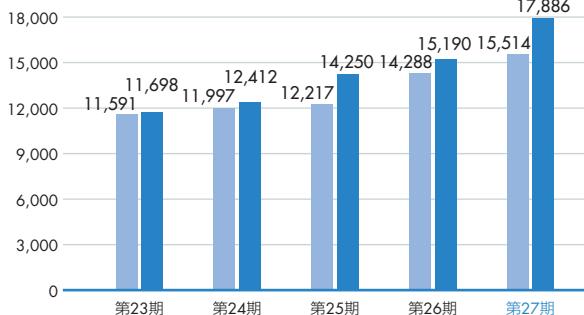
(%) ○ ROA ○ ROE



総資産

178億86百万円

(百万円) ■ 中間 ■ 期末

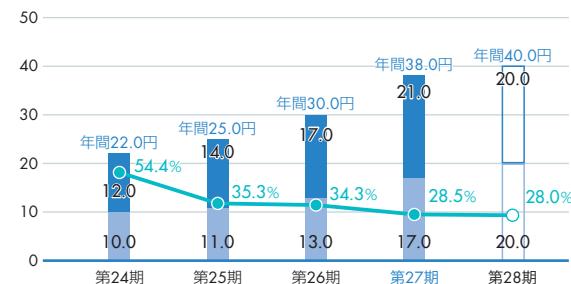


1株配当金・配当性向

38.0円
28.5%

(円) ■ 中間 ■ 期末 □ 予想

● 配当性向(期末)



連結業績ハイライト

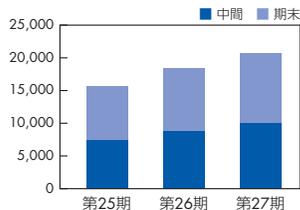
セグメント別概況

ソフトウェア開発

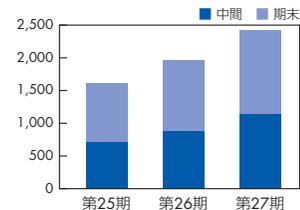
売上高 **207億4百万円**
 営業利益 **24億15百万円**



売上高 (百万円)

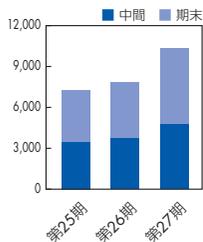


営業利益 (百万円)

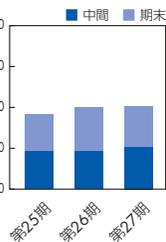


業種別売上高 (百万円)

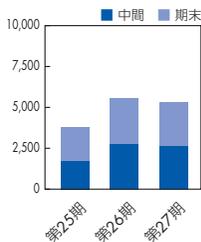
〈金融・保険〉



〈公共サービス〉

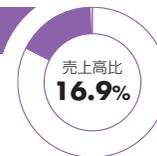


〈流通・その他〉

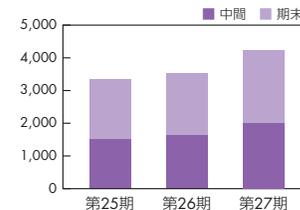


組み込み型ソフトウェア開発

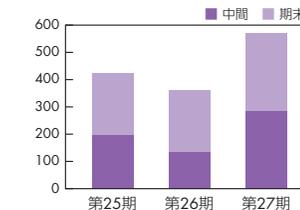
売上高 **42億41百万円**
 営業利益 **5億71百万円**



売上高 (百万円)

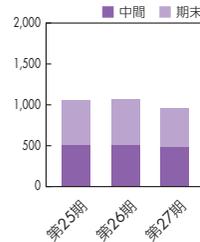


営業利益 (百万円)

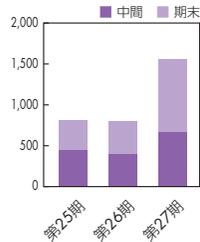


分野別売上高 (百万円)

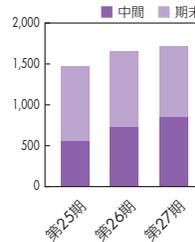
〈通信システム〉



〈カーエレクトロニクス〉



〈情報家電・その他〉

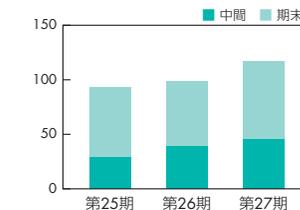


商品・製品販売

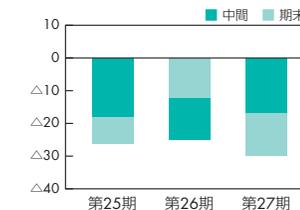
売上高 **1億17百万円**
 営業利益 **▲30百万円**



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



配当方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目的に、継続的に実現することを目指してまいります。

私たちはIT業界の「匠」です。



クレスコは、今まで「匠」として

アプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組み込み技術

の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの軸にしながら、

さまざまな仕組みづくりを手掛けてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組み込み技術においては、

創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると40年近く。

他社の追随を許さない技術の蓄積があります。

品質に対するこだわり。

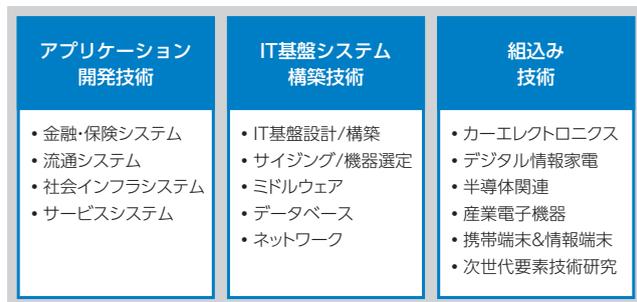
そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え続けてまいります。

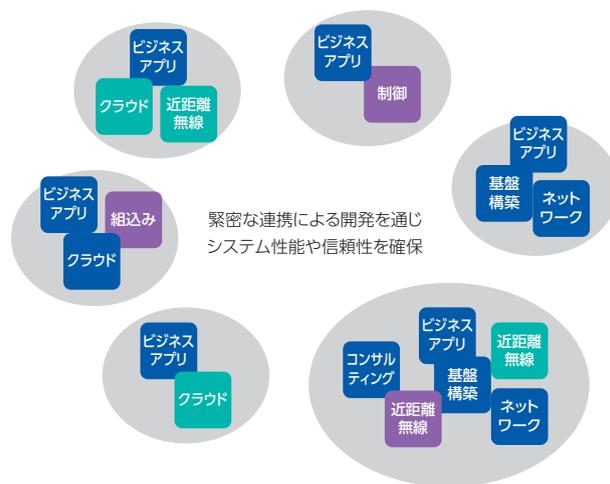
社名の由来

企業活動の成長が世界の人々の幸福に可能な限り最大の貢献をすること、そして、そこに働く人々が共に喜びと誇りをもち、自己の能力を最高に発揮できることが企業の使命であると考え、ラテン語で「成長する」という意味を持つ「CRESCO」を社名としております。

クレスコの強み①経験に支えられた3つのコア技術



クレスコの強み②コラボレーションによる事業の創造



クレスコグループの再編

今後の事業展開および事業の効率性向上を見据え、クレスコグループを再編しました。引き続き、クレスコグループは各社の連携を密に、顧客基盤・事業基盤を有効に活用し、事業の拡大にチャレンジしてまいります。

◆株式会社エー・アイ・エム スタッフ



2014年12月26日付で関連会社として加わりました。受託ソフトウェア開発およびシステム基盤構築を主力事業とし、Java技術を用いたWebシステム開発に強みを持っています。

◆株式会社エス・アイ・サービス



2015年4月1日付で子会社として加わりました。SAP社の基幹業務(ERP)パッケージシステムの導入支援を主力事業としています。同社代表取締役社長に、当社の取締役で子会社「クレスコ・イー・ソリューション」の代表取締役社長を務める谷口義恵が就任しました。

◆クレスコ ワイヤレス株式会社



2015年4月1日付で子会社「ワイヤレステクノロジー」は子会社「クレスコ・アイディー」を吸収合併し、「クレスコ ワイヤレス」に社名を変更しました。合併により近距離無線通信技術の専門性を高め、より付加価値の高いサービスをお客様にご提供いたします。

自己株式の活用「TIP・2014モデル」

開発体制の強化、事業領域の拡大、新技術の研究開発等を推進するために、自己株式を活用した第三者割当による新株予約権の発行(全3回)により、資金調達を実施しました。2015年3月末現在、第1回の新株予約権(50万株)については、権利行使が完了しております。

ヴェルド社が発売したスマートウォッチの回路基板を「ワイヤレステクノロジー」が設計開発

株式会社ヴェルド様が2014年12月12日に発売したスマートウォッチ「VELDT SERENDIPITY(ヴェルト・セレンディピティ)」*1の回路基板のハードウェアとソフトウェアの設計開発を、子会社「ワイヤレステクノロジー」が行いました。

「VELDT SERENDIPITY」は、「ネットに時間を奪われすぎた生活のリバランス」がコンセプトのスマートウォッチです。「必要最小限の情報を直観的に表示すること」にこだわり、アナログの文字盤に埋め込まれたLED「Vivid Loop」が様々に輝いて、iPhoneと連携して情報を表現します。バッテリーの持続時間が大きな課題でしたが、「ワイヤレステクノロジー」はBluetoothに特化した近距離無線通信技術の専門会社という特性を活かし、回路基板設計およびLEDやOLED表示部分、専門アプリとの通信などの組込みソフトウェア開発を担当し、1回の充電で待機約1週間*2の持続時間を実現いたしました。



*1:製品サイト <http://www.veldt.jp/serendipity>

*2:アプリケーションの利用状況や使用環境に依存

Skeed社の第三者割当増資を引き受け

2015年3月31日に株式会社Skeedの第三者割当増資を引受けました。同社とは戦略的技術提携を通じて、高速クラウド構築支援サービス「インテリジェントフォルダエクスプレス(Intelligent Folder Express)」のご提供や、IoT(Internet of Things)事業の技術基盤の確立を目指した共同研究・実証実験を行っております。

今回の増資引受けにより、両社の事業基盤を有効に活用し、相乗効果を最大限に創出してまいります。



ビーコン × ショートメッセージ × 自動音声通知 で 点呼を簡単にサポートする「みんなのてんこ」

旅行等の様々なシーンで行われる点呼を、ビーコン (Beacon) とスマートデバイスを使って自動化する「みんなのてんこ」のご提供を開始いたしました。最近、注目を集めているIoT (Internet of Things) の実現手段として、話題のiBeaconに代表されるBLE (Bluetooth Low Energy) Beacon技術を採用しています。

団体旅行や大人数が集まるイベントで、主催者が、事前に参加者情報を登録し、イベント当日にビーコンを内蔵したバッジを参加者に配布し、点呼専用のアプリケーションをインストールしたスマートデバイスを使って、参加者の不在状況を確認することができます。また、不在を把握した際には、不在者に集合を促すメッセージを送信できます。メッセージはショートメッセージ(SMS)と自動音声通知から選択して送信でき、共に16ヶ国語に対応していますので、海外からの旅行客のツアーでは便利にご利用いただけます。

本サービスはテレビ東京「ワールドビジネスサテライト」の「トレンドたまご」で紹介^{*3}されました。



※3:「トレンドたまご」の紹介ページ
http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/wbs/trend_tamago/post_86019/

監査等委員会設置会社へ移行

2015年6月19日開催の第27回定時株主総会で、2015年5月1日施行の「会社法の一部を改正する法律(平成26年法律第90条)」で新たに創設される「監査等委員会設置会社」へ移行することをご承認いただきました。監査等委員である取締役(複数の社外取締役を含む)に取締役会における議決権を付与することで、取締役会の監督機能を強化し、コーポレートガバナンスの充実を図り、より透明性の高い経営の実現と経営の機動性向上の両立を目指します。

海外のIRカンファレンスに参加

これまで国内に絞ってIR活動を行ってまいりましたが、グレスコグループが保有する技術・品質の高さ・サービスの魅力を世界に向けてアピールするために、ドイツ銀行グループ様主催の海外の投資家様向けIRカンファレンスに参加し、代表取締役社長 根元浩幸 と 取締役財務経理部長 杉山和男が出席し



て会社説明を行いました。

今後は国内と海外の両方の投資家様に当社の魅力をご理解いただけるよう、IR活動に取組みます。

◆dbAccess Japan Conference

2014年11月20日～21日に、ドイツ銀行 ロンドン支店で開催されました。今年で9年目を迎えたグローバル・ジャパン・カンファレンスです。日本企業が集う機関投資家向けのIRイベントで、日本株ファンドに加えて、グローバルファンド、セクターファンドが多数参加しました。

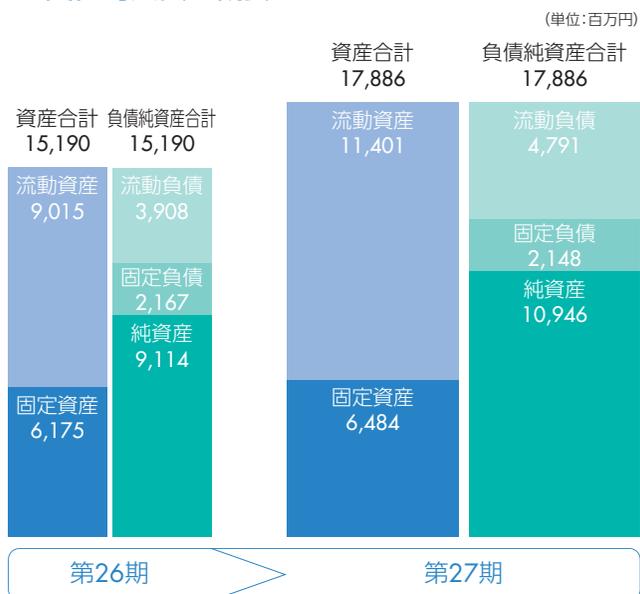
◆dbAccess Japanese Emerging Stocks Corporate Day

2015年3月12日～13日に、ドイツ銀行 香港支店で開催されました。日本の成長企業に高い興味を持つ香港のアジア株もしくは日本株ファンドをターゲットとした、今回初めて香港で開催された機関投資家向けのIRイベントです。

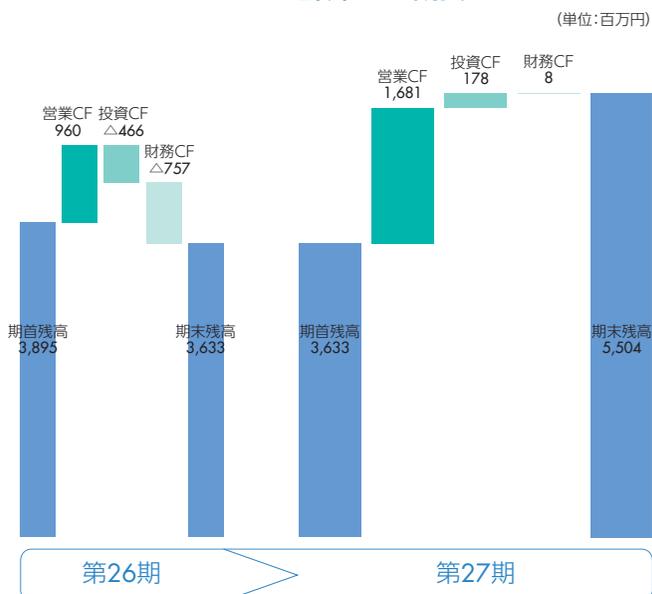
来期の業績見通し

2016年3月期の期末業績予想につきましては、売上高270億円(前年同期比7.7%増)、営業利益22億円(同9.3%増)、経常利益24億円(同7.1%増)、純利益15億70百万円(同11.7%増)を見込んでいます。

■ 貸借対照表の概要



■ キャッシュ・フロー計算書の概要



■ 流動資産

23億86百万円
(前年度末比)

有価証券が93百万円減少したものの、現金および預金が17億51百万円、受取手形および売掛金が7億63百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて23億86百万円増加し、114億1百万円となりました。

■ 固定資産

3億9百万円
(前年度末比)

繰延税金資産が90百万円減少したものの、投資有価証券が3億49百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて3億9百万円増加し、64億84百万円となりました。

■ 流動負債

8億82百万円
(前年度末比)

買掛金が2億54百万円、未払消費税等が4億61百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて8億82百万円増加し、47億91百万円となりました。

■ 固定負債

18百万円
(前年度末比)

退職給付に係る負債が1億78百万円増加したものの、長期借入金が2億35百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて18百万円減少し、21億48百万円となりました。

■ 純資産合計

18億32百万円
(前年度末比)

利益剰余金が10億13百万円、資本剰余金が4億77百万円、その他の包括利益累計額が2億3百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて18億32百万円増加し、109億46百万円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払額が8億48百万円、売上債権の増加額が7億61百万円あったものの、税金等調整前当期純利益が23億71百万円、未払消費税等の増加額が4億61百万円、仕入債務の増加額が2億53百万円あったことにより、16億81百万円の収入(前年同期9億60百万円の収入)となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の取得による支出が14億56百万円、投資有価証券の取得による支出が14億81百万円あったものの、有価証券の売却による収入が15億86百万円、投資有価証券の売却による収入が14億11百万円、投資有価証券の償還による収入が2億34百万円あったことにより、1億78百万円の収入(前年同期4億66百万円の支出)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額が3億58百万円、長期借入金の返済による支出が2億45百万円、自己株式の取得による支出が1億79百万円あったものの、新株予約権の行使に伴う自己株式の処分による収入が8億円あったことにより、8百万円の収入(前年同期7億57百万円の支出)となりました。



ホームページのご案内

最新のIR情報や
財務データ、決算関連資料を
掲載しております。
ぜひ、ご利用ください。

<http://www.cresco.co.jp/>

取締役



代表取締役会長
岩崎 俊雄 Toshio Iwasaki
1940年11月30日生



取締役副会長
水谷 浩二 Kohji Mizuya
1947年7月6日生



代表取締役社長
根元 浩幸 Hiroyuki Nemoto
1960年2月12日生



常務取締役
コーポレート管理本部長
丹羽 蔵王 Kurao Niwa
1955年11月13日生



常務取締役
事業統括本部長
山元 高司 Takashi Yamamoto
1960年10月11日生



取締役
財務経理部長
杉山 和男 Kazuo Sugiyama
1964年9月1日生



取締役
事業統括本部副本部長
富永 宏 Hiroshi Tominaga
1967年1月9日生



取締役
事業統括本部副本部長
菅原 千尋 Chihiro Sugawara
1958年9月27日生



取締役(非常勤)
クレスコ・イー・ソリューション(株) 代表取締役社長
(株)エス・アイ・サービス 代表取締役社長
谷口 義恵 Yoshie Taniguchi
1953年10月16日生



取締役(非常勤)
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長
熊澤 修一 Shuuichi Kumazawa
1956年9月30日生

監査等委員



監査等委員
波多腰 茂 Shigeru Hatakoshi
1951年11月17日生

監査等委員(社外取締役)

臼井 義真 Yoshimasa Usui
1949年2月11日生

監査等委員(社外取締役)

井手 正介 Masasuke Ide
1942年6月28日生

1 株式会社クレスコ 本社
2 北海道開発センター
3 長岡開発センター



事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築
- クラウド
- コンサルティング
- 組込み
- 近距離無線
- クラウド

連結子会社

4 クレスコ・イー・ソリューション株式会社



事業内容

- ビジネスアプリ
- クラウド
- コンサルティング

5 クレスコ ワイヤレス株式会社



事業内容

- 近距離無線
- 近距離無線

6 株式会社アイオス 本社
7 関西営業所



事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築

8 クレスコ九州株式会社



事業内容

- ビジネスアプリ

9 クレスコ北陸株式会社



事業内容

- ビジネスアプリ
- ハードウェア

10 科礼斯軟件(上海)有限公司



事業内容

- ビジネスアプリ

11 株式会社シーズリー



事業内容

- 組込み
- 制御

グループ各社の連携を密に、その総合力を発揮して、さらなるビジネスの拡大にチャレンジしてまいります。

12 株式会社クリエイティブジャパン



事業内容

- 基盤構築
- ネットワーク

13 株式会社エス・アイ・サービス



事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティング

関連会社

14 株式会社ウェイン



事業内容

- ビジネスアプリ
- コンサルティング

15 ビュルガーコンサルティング株式会社



事業内容

- コンサルティング

16 株式会社エル・ティエ・エス



事業内容

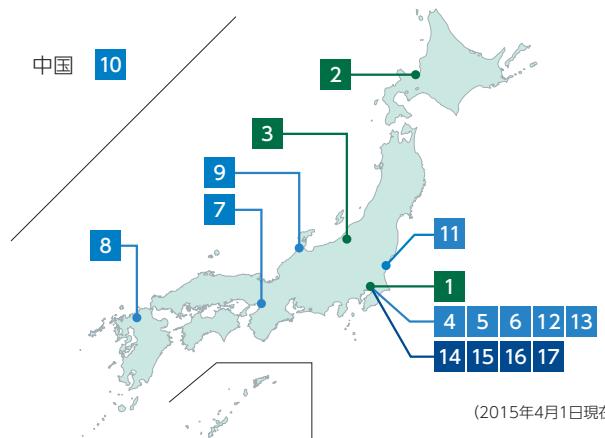
- コンサルティング

17 株式会社エー・アイ・エム スタッフ



事業内容

- ビジネスアプリ
- 基盤構築



株式の状況

(2015年3月31日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	10,991,112株
	(自己株式1,008,888株を除く)
株主数	2,858名

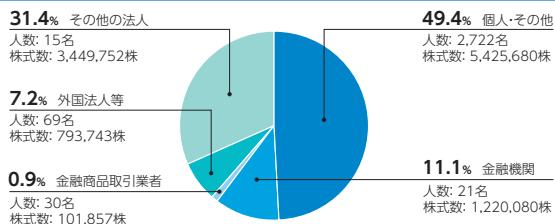
大株主

(2015年3月31日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	34,396	31.43
浦崎 雅博	11,818	10.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,930	5.41
佐藤 和弘	5,785	5.28
クレスコ従業員持株会	5,174	4.72
田島 裕之	4,448	4.06
岩崎 俊雄	3,015	2.75
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS	1,720	1.57
波多腰 茂	1,260	1.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,026	0.93

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2015年3月31日現在)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 ☎ 0120-232-711 (通話料無料) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞社に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



～ システムで未来を創る ～

会社概要

商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	1,008名
所在地	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 25階～27階 TEL : 03-5769-8011 FAX : 03-5769-8019 ■ 北海道開発センター 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル 2階、11階 TEL : 011-200-5550 FAX : 011-200-5665 ■ 長岡開発センター 〒940-0071 新潟県長岡市表町1-11-1 長岡フロントビル 4階 TEL : 0258-30-0370 FAX : 0258-33-1771
事業内容	情報処理システムに関する <ul style="list-style-type: none"> ■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務 ■ 設計、開発業務 ■ 運用管理、保守業務 ■ 調査、分析、評価および技術支援業務

(2015年4月1日現在)

IRのお問合せ 経営企画室

Mail: ir@cresco.co.jp
TEL: 03-5769-8058



東京証券取引所 市場第一部
証券コード 四六七四

東京証券取引所
市場第一部
証券コード 四六七四